

經典餘師

孫子之部

上

口 11
2047
43



明 211
新 2147
卷 49

讚岐百年先生述

經典 餘師 孫子之部 卷二

寬政丙辰 新鐫 大坂書林合刺

孫子卷上

始計第一



孫子の曰兵者國之大事

死生之地存亡之道察不察不可不察也

經典餘師

孫子卷上

始計第一

孫子曰兵者國之大事 軍戰の事と兵

孫子曰兵者國之大事

鐵炮盾矛惣て武具一切の総名之 人々持たぬ故

兵卒とも云く此段の軍と云ふに至りて重き

義と説くたゞの敵をわけてその國を切

封内とも云ふ田地とわたりし人民とをさ

い草木五穀財寶ともいふかりて万事よつて

誠は國家の大事なりすやとぞ

死生之地存亡之道不可不察也

大將のものを配するなりて多し人の生死

の跡のかりゆきよ依て國滅亡ニお

孫子卷上

曰主孰有道將孰有能天地孰得
 地孰行兵衆孰強士卒孰練賞罰孰明
 以勝負と知(美)

武藝も長短あり大将たるもの之と聞知て
 能さるるも長短あり軍に勝ちさるるもの
 不勝べし依て其情と索るる七ヶ条の計は
 校考せしめて其實情と索るるべし
 曰主孰有道將孰有能天地孰得
 法令孰行兵衆孰強士卒孰練賞
 罰孰明吾以此知勝負矣
第一の敵
 國と味方
 主君の徳孰く作法らうて道と明か
 察せり次は命せり處の大將の孰
 武畧知畧の能さるるなり次は運
 數と地の理は要害せんわくいづれは仕合と
 得るぞ次は法度号令いづれは能軍中
 行りぞ次は兵衆いづれは強弱多少なり
 ぞ次は士卒軍中の掛引武藝の鍛練いづ
 かの能さるるぞ次は大将物頭の人多きもの

將吾計と用之必勝之と留
 聽之と用之必敗之と去ん
 將吾計と用之必勝之と留
 聽之と用之必敗之と去ん

計と利と
 以て聽け乃ち
 其外と佐よ勢
 者利と因て而
 權と制也

賞罰いづれも明かに執るぞと両方の甲乙を
 比較せりいづれも勝るぞと勝負の色すべし
 りて知るなり
 將聽吾計用之必勝留
 之將不聽吾計用之必敗去之
用ゆる所の諸將の計と能聽いれりやなは
 かやが勝利を得べし人の留て用るはた
 かり又その計とねらふるものなり去
 りて又その計とねらふるものなり去
 りて又その計とねらふるものなり去
 以聽乃爲之勢以佐其外勢者因
 利而制權也
右計の利は外に
 内とたすべし
 矩りて内とん形勢と敵に對してその變
 相應ト不意に出て眞草の格と用て外
 相らぬもらて勝利と佐るものなり形勢

其戰久と用る也勝も久と鈍也則兵と鈍也
攻と挫城と攻と挫城と
屈と久く師と
暴せば則國用
足不

又兵糧器具と載て革して包て車千のり
牛十二頭と駕するなり司する人數二十五人
のり合して甲と帶する兵士十万人の糧と
用費日々千金も入る子細の軍兵の糧と
饋にも國內より國外へ送りける費は又
旗下の人々とも談合恩賞等の賓客も
入用又謀士説客等の逗留の費の外膠
漆等の材は必し車胄等の奉養も
限らずてその費莫大かりやその大作憂う
て後アリとよ十方の師衆と擧げし
る所是なり及
其用戰也勝久則鈍
兵挫銳攻城則力屈久暴師則國
用不足
兵と用る手早とた
勝利ありと久く人數も
銳氣と挫さ万事つる鈍
城と攻る
屈と依て國の入用莫大
なりと暴
人數の外
夫鈍兵挫銳屈力
彈貨則諸侯乘其弊而起雖有智
者不能善其後矣
右の如く未方の弱と
諸侯の虚と乘り起る野伏
士一起の徒輩も出べし
智者名將の後の志ありと善
能ききりり貨彈も國の入用
故兵聞拙速未覩巧之久也
兵法の
肝要はと
子細の機變拙くも手速
くも利ありと未覩
夫兵
久而國利者未之有也故不盡知

夫兵と鈍銳と
挫力と屈力と
諸侯其弊と乘
有と雖も起智
後と善する
能不
故兵の拙速と
未覩巧之久
夫兵久し
國利者未
之有也

夫兵久し
國利者未
之有也
久而國利者未之有也故不盡知

故盡兵之用
之害と知不者
の則盡く兵と
用ゆる之利と知
こと能不也

善兵と用ゆる者
兵役再び籍せ
不糧三ふ載せ
不用と於國
取糧と於敵
因故軍食足
可也

國之於師
師之於國
師之於師
師之於國
師之於師
師之於國

輸すは遠く
百姓貧し師
近者賣と貴
を賣と貴す
財竭財竭
急なり力屈財
彈き中原の内
於家虚し

百姓之費十
其七と去公家
之費車と破馬
と罷甲冑
弓矢戟楯矛
櫓丘牛大車十

用兵之害者則不能盡知用兵之
利也
依て知と用て久しく
人數と出とて國に利有り盛なるとい

用兵者役不再籍糧不二載取用
於國困糧於敵故軍食可足也
善兵と用ゆる者
兵役再び籍せ
不糧三ふ載せ
不用と於國
取糧と於敵
因故軍食足
可也

師者遠輸遠輸則百姓貧近師者
貴賣貴賣則百姓財竭財竭則急
於兵後力屈財彈中原内虚於家
國貧く師衆事と欠と下の百姓すぐ物と輸
依て下の百姓すぐ物と輸
依て下の百姓すぐ物と輸
依て下の百姓すぐ物と輸

原内けりの外困窮し百姓之費十
公其七公家之費破車罷馬甲冑
弓矢戟楯矛櫓丘牛大車十去其

其六と去

故智將務
一鍾吾二十鍾
吾二十石當

故敵を殺む
利と取者貨

六 國中の百姓を養ふに十の内に七分は去

れ甲冑弓矢戟矛楯櫓丘役の牛重荷を載

る大車そのほろ一切の武具十の内六分は

ゆつるる故智將務食於敵一鍾當

依りて明智の大將糧食と敵國を取らる

依りて敵を殺むるは味方と味方と恩賞する

者貨也故殺敵者怒也取敵之利

車戰得車十乘以上賞其先得者

而更其旌旗車雜而法乘之卒善

而養之是謂勝敵而益強

故兵貴勝不貴久故知兵之將民

之司命國家安危之主也

味方の物より更改する車は味方より入す

乗る又降参の士卒は味方より入す

育安堵を就べし味方より入す

形勢より味方より入す

故兵貴勝不貴久故知兵之將民

之司命國家安危之主也

味方の物より更改する車は味方より入す

乗る又降参の士卒は味方より入す

育安堵を就べし味方より入す

形勢より味方より入す

謀攻第三

孫子の曰夫兵と用之法國と全と破之と上と為國と破之と上と軍を全とす次軍を全とすと上と為軍と破之と上と旅を破之と上と卒を破之と上と伍を破之と上と

速かに勝利を貴尚び久く鉅るをいひるかりまことに兵法は知連大將こそ萬民の生命難するもの二つを主とするは又國家の安堵する此段兵と用ゆるははかりて國家の害多しと長陣と張とは殊に多き少くと叮嚀しての如し

謀攻第三

謀計を以て敵城を攻めんとしかりては城を破て人と殺い好むなりたが万全と以て上計とん是孫子の本意なり

孫子曰夫用兵之法全國爲上破

國次之全軍爲上破軍次之全旅

爲上破旅次之全卒爲上破卒次

之全伍爲上破伍次之

全と破之と上と伍を破之と上と

合戰と用ゆるははかりては城を破て人と殺い好むなりたが万全と以て上計とん是孫子の本意なり

他國とも兵と動し敵國おのづから形勢しり降服又い降参りて味方なり

完とて是上の計畧なり破て味方なり

勝利を得い善とて全完する

戦い人数一万二千五百人なり旅い五百人なり卒い百人なり伍い五人なり凡そ多人數より一人人

至しとも全完して勝利を取と妙なり

是故百戰百勝非善之善者也不

戰而屈人之兵善之善者也

度たり毎勝利を得し人善とて害な

是故百戰百勝善之善者也

善之善者なり非也戦い兵と屈す善之善なる者也

故上兵伐謀其次伐交其次伐兵其下攻城

城之法為不得已脩櫓輶具

輶具三月而後成距堙又三月而後已

將其忿而勝不忿而蟻附之殺士卒三分之一而城不拔者此攻之災也

戰争と不用して人の軍兵と屈服して善くは善智畧とありて上なる者徳を以て敵と服し次なる者軍威を張て降從せしむる例羣籍に見たり

故上兵伐謀其次伐交其次伐兵

其下攻城 依て兵と用るの上手といふは敵の謀畧をついて味方の謀略

先之をくきとる味方不動して敵の手を出さざる上なる所為なり又次の敵國たむりかた頼みあり相手と味方謀畧を依てあり味方がとりつれ又その交接となる

て敵を弱しむる是上の謀と伐するの劣るなりこの次の敵兵とたむりするの不意

と伐するの虚と攻て勝利と得るなりこの次の城と攻るに委細に下の段よりなり

攻城之法為不得已脩櫓輶具

器械三月而後成距堙又三月而後已

後已 費し器械と多し兵衆と殺して

尚の勝敗しるべきなり實は已とて不得に依てなりこの法輶輶車とて濠とす

輶輶車とて仕寄の車と修造する外一切の器械攻城の具といふ日數とて作りしむる

櫓の車の大盾なり三月とて日數とて作りしむる詞なり距堙とて向城とる土手山と造る成

之に三月とて作事と已とかり將不勝其

忿而蟻附之殺士卒三分之一而

城不拔者此攻之災也

守て動しるの費はれれば大将

の長陣と勝るにて短兵急は俄攻なり

故曰善兵を用者
 人之兵を屈して
 而戦ひよ非ざる也
 人之城を拔て而
 攻よ非ざる也人の
 國を毀て而久し
 きる非ざる也
 必し全と以て
 故に天下を争ふ
 故に兵頓不
 此謀攻之法也

細い屏裏は蟻の如く入り入り隙をゆき
 城兵多しみるし打つるべし災禍と引つるべし
 城拔ざりしはたの大なる災禍と引つるべし
 或い味方の内は狐疑と生れ又の兵糧も
 く又の裏城の如く又の敵の後詰り
 災禍と引つるべし城攻の
故善用兵者屈
人之兵而非戦也拔人之城而非
攻也毀人之國而非久也必以全
争於天下故兵不頓而利可全此
謀攻之法也故善用兵法よくく全勝
 用敵人と屈服し不攻して城を後し久
 傾敵の陣城と毀しつるべし

故に兵と用る
 之法十はんべ
 之と圍五はん
 則之と攻倍な
 ねば則之と分
 敵ければ則能
 と戦ふ少ければ
 則能之と守若
 不ば則能之と
 建故に小敵之
 堅大敵之擒
 也

攻城の要 **故用兵之法十則圍之五**
則攻之倍則分之敵則能戦之少
則能守之不若則能避之故小敵
之堅大敵之擒也故論するの如く
 大敵と明き敵兵千味方十倍一万余
 取圍てその降参と待も可なり五倍は
 一の計數と以てたはく虎口を留て圍攻戦
 一定は拘るべし又敵千味方二千の倍は示
 けて攻伐たはく正兵の敵と對し奇兵の敵
 捨つるべし又千と千と敵と人

衆を取べし又味方人数少寡ければ其の圖と見
 謀計とかりかどはく一戦攻て

謂之難至者則諸
是謂亂軍引勝

故有以與戰
五有以與戰
不可與戰
勝衆寡之用
識者勝上
下欲同者
者不虞待者
勝將能

而君御不者
勝此五者
勝之道也

故曰彼知
死不知者
一勝一負
不知者
敗

二一三軍の事と不知して軍中の政法と同
共るるを是は君の心は猜疑の所なり
かり物軍の外に及ぶ三軍中の
權として時を臨み就て知畧は是は他
不洩し遂に後と可見し軍中の大
將を委任は同共之をけり軍中の
狐疑を去るは虚を棄て敵國の諸侯
周密に難義なる是と謂て軍中と乱
り至て勝利と引けるなり
て敵は勝利と引けるなり
故

君不御者勝此五者知勝之道也

可勝の道理五ヶ条あり一は戦闘は圖と
たふすは是は寡兵を用べしと云ふ
三は上下主従の艱難又嗜欲を同し
やの者四は我備は其の能て敵の不
虞を待りけり五は大将の才能あり
五の者一は勝利と知の道なり
故曰知己百戦不殆不知彼
而知己一勝一負不知彼不知己
每戦必敗
先我味方の虚實強弱の理を達
し又敵の虚實強弱を知しは百戦必
くは死すなり
巴味方の事ハ能くは彼
敵情を元より不知し又己も不知
又彼を元より不知し又己も不知

軍形第四

孫子の曰昔之善戰者先為不可勝以待敵之不可勝

戰争とすして勝利するべき道理なり依て戦毎に必て敗るべし

軍形第四

上は戦争の不利とすく論く戦争及びなり依てその形を勢いとけむいん論せり

孫子曰昔之善戰者先為不可勝以待敵之可勝不可勝在己可勝在敵故善戰者能為不可勝不能使敵之必可勝故曰勝可知而不可為不可勝也

勝可者不可勝也守可者不可攻也攻不足則餘有

守則不足攻則有餘者藏於九地之下善攻者動於九

天之上も動故
能自ら保て
而全く勝也

勝と見の衆人
知所は過不善
之善也戦勝者
非ざる也戦勝て
而天下善と曰
善之善者なる
者も非ざる也

天之上故能自保而全勝也

善守
いんた敵攻とくも深く形をかくして知るる九地の下は截らるが如きなり又さぐ

まりくつて内の之を知らざれば又善攻と
りいんた敵守といふも千変万化してその攻

と九天の上は満動と測るるなり又善攻と
たぐく敵の要害と恃ば要害と攻めたり敵

の援兵又の兵糧と恃とすれば早速せめて之
と破りたり天も地も九重なるゆへ測知

自守て味方と保べ敵といふ能攻て
勝利と全見勝不過衆人之所知非

善之善者也戦勝而天下曰善非

善之善者也
戦攻と善して勝と取といふ
形かく不萌とさうと取

攻と得と攻め取と取らぬ勝るる場
利と得と攻め取らぬ勝るる場

此章の心の衆人の認知べさの理も言はるる勝
つる場と勝るる場と至極善といふ言はるる又

勝利と得たるは天下九衆の人の善と稱する
勝るる是も至極善といふべし可知器量の

人の善といふと勝利の
實は善といふなり

故舉秋毫不為
多力見日月不為明目聞雷霆不

為聰耳
秋の末の鳥獸の毛かそくて常ふ
りも軽しとの段の喻は凡人の皆志

のたさなり多力なり
のたさなり多力なり

古之所謂善戰者勝於
易勝者也故善戰者之勝也無智

古之所謂善
戰者ハ我勝易
きも勝者也故

易勝者也故善戰者之勝也無智

古之所謂善
戰者ハ我勝易
きも勝者也故
易勝者也故善
戰者之勝也無
智也

勇功無故其
戰い勝と忒不

不
忒不者其勝
措所已敗

故善戰者
不敗之者

地不失敵
之敗也

先戰而後
求敗兵

先戰而後
求敗兵

先戰而後
求敗兵

名無勇功故其戰勝不忒謂戰伐と

善すりたる大将の所為はその勝易いもの勝て

取て兵卒兵糧他の費たたく目よ立に依てそれ

よつて格別から智者と名もかり又それら

する技をとりつる外にその根本たる大敵も夫

れどもよく勝利を取たり故よその勝利も忒

也。この勝の不忒といふものは必ず勝べき圖とも

難と之をいふ故善戰者立於不敗之

地而不失敵之敗也是故勝兵先

勝而後求戰敗兵先戰而後求勝

善戰者軍法と能く之の初未

つねよその敗まざる地よ軍と立に敵の

吾れ勝なき圖とするにせよの虚に乗つて吾れ敵

と敗む幾と不失たり依て良將必勝を取

の兵先軍法と能く之の合戦の地と謀策

と定むて可勝の本とたりてその後よ敵と

先戦攻め臨みてその場よ敵よ敗と取の將い

善**用兵者修道而保法故能爲**

勝敗之政重なる道と法と

法一曰度二曰量三曰數四曰稱

善兵と用る者
道と修て能

兵の法一曰
度二曰量三

日數四曰稱

稱五曰勝

地度と生に

度量と生に

量數と生に

數稱と生に

五曰勝

五事の兵家の大事極意にして

地生度

地争の事ハ地ニ依リ

險阻平原或ハ城郭と云ハ又ハ陣營ハ
其の程の長短又ハ廣狹又ハ曲直の
品々皆丈尺寸法を用ヒテ度ト云ハ丈尺乃
事ヤリイヅル地トシテ生トシテ道理を以テ

度量

量ト云ハ斗斛の事トシテ物のけり

此ト我ト強弱優劣と云ハ形ハ小大配分又ハ倉
廩の虚實人力の多少虎口の多少等々
兼テ量トクニ全ク度トシテ生ト来ト量

生數

數ト云ハ算の事トシテ先備の手配手組

凡テ人數多寡のかり

數生稱

稱ハはる

稱勝と生に

故勝兵ハ鎰を以テ
鉄と稱若敗兵
ハ鉄と以テ鎰
と稱若

勝者之戰ハ
積水ト決
千仞之谿
者ハ形也

稱生勝

敵トシテ重クハ輕卒トシテ味方トシテ

故勝兵若以鎰稱鉄敗兵

若以鉄稱鎰

誠ニ勝利ト得ハ形ハ重ク

又敗北スル時其敵對ナリテ一ガ輕
壁ハ重キトシテ引舉人トシテ一ガ輕
合メテ鎰トシテ鉄トシテ四ハ一ニ勝

者之戰若決積水於千仞之谿者

形也

軍ハ勝ハ積溜トシテ水ト數

兵勢第五

孫子卷之五

兵と用るの法いすてよ上よ委曲
かり尚よの勢形とりたてきと

戦間の要なるは速より勢形もたかくは獅子
なご方よ他の獸類と取れりんとすんば容貞
とすし身とすんば翼とちむるもは鷹も他の鳥
と撃んとすんば深く察すやと

孫子曰凡治衆如治寡分數是也

孫子の曰凡衆
と治る如分數是
也

衆の闘ふ如形名
是也

治る兵法とらふ目よ餘りの人數とらふ依て伍人よ
りくたて十組して五十騎とすんば自由自在なり
すしその數を分て分配すれば自由自在なり
と闘衆如闘寡形名是也 又衆兵と戦
寡兵のいけひきしやうの形とすもの示と
い五方五色の名等とすんばやうの形とす

太鼓貝金旗馬印は名よ青は東は
北は西は南は黒は北は黄
は中央のよとて退却して合戦中も青旗と
貝金とききて退却して合戦中も青旗と
いふよとて軍令とすんば白旗と僵は西をとりて
自在なり 三軍之衆可使必受

敵而無敗者奇正是也

けく敗軍せらるるも奇正よ如もの奇正
のよとて大宗問對よとすんば奇正の兵と
進退よ変り何と先何と後と遠近

所加如以碇投卵者虚實是也

用るの大事虚實ありたりと互よとすんば
けぐるの中かんばいづれ勝劣いづれとすんば

兵の如く所破
也

三軍之衆必
敵と受て而敗
正是也

凡戰者正以奇勝

故善出奇者無竭如江海之復始日月是也

聲之變勝不可也

色之變勝不可也

味之變勝不可也

戰勢之變勝不可也

虚の如きもの兵糧の火を敵に投ずるは實を以て虚とするのたゞかり

者以正合以奇勝

故善出奇者無窮如天地不竭

如江海

終而復始日月是也

也死而更生四時是也

聲不過五

勝聽也

色不過五

味不過五

戰勢不過奇

孫子卷之七

二十九

可勝窮也。奇正相生。如循環之無

端孰能窮之哉。軍戰の事は奇正の二より外にあり上より五

激水之疾。至於漂石者。勢也。

激水之疾。至於漂石者。勢也。水の性

鷙鳥之疾。至於毀折者。節也。

鷙鳥之疾。至於毀折者。節也。鷙鳥

故善戰者。其勢險。其節短。

故善戰者。其勢險。其節短。善

勢如彊弩。節如發機。

勢如彊弩。節如發機。勢形

紛紛紜紜。亂而不可亂。

紛紛紜紜。亂而不可亂。紛々

渾渾沌沌。形圓而不可敗。

渾渾沌沌。形圓而不可敗。渾々沌々と

亂生於治。怯生於勇。弱生於強。

亂生於治。怯生於勇。弱生於強。治

故善戰者動
必從之予之敵
必取之以利動之
以本待之

故善戰者
不責之於人
故能擇人而任勢
其任者之
勢也

也木石之性安
則止圓則行
故善戰者
如轉

虛實第六

孫子卷之上

故善戰者形之敵
必從之予之敵必取之以利動之
以本待之
故善戰者不責之於人故能擇人而任勢
者求之於勢不責之於人故能擇人而任勢
人而任勢
勢者其戰人也如轉

木石木石之性安則靜危則動
則止圓則行
故善戰人之勢如轉

虛實第六
實

孫子卷之上

時は依て虚なり時をり思將も
實なるの時をり思將も
將の奇正变化の妙なるを名將も

孫子の曰凡先
戰地を處て而
敵を待者ハ佚
後て戰地を
處んとして而趨
戰み者ハ勞

孫子曰凡先處戰地而待敵者佚
後處戰地而趨戰者勞
戰地ハ兵と
用て善場所
て勝をとるなり
先處きて敵兵を待ばらる佚安
後て場所へ趨きて至

故又善戰者
人と致して而
我人致せん不

戰者致人而不致於人
依て善戰者
吾虚なるを
之りて實
敵の利と之りて吾利と
是と人と致さるるなり

能敵人自
至ら使し者ハ
之利す也

能使敵人自至者利之也能使敵
人不得至者害之也
利と以て敵を
欺して至しめ敵

故敵佚
能之と勞
飽能之と飢

能勞之飽能飢之安能動之出其
所不趨趨其所不意
故敵佚
兵糧を乏しめ飽てあられ
安居しられん動

動す其趨
所出其意
不所趨し

行千里而不勞者行於無人地
也攻而必取者攻其所不守也守
而必固者守其所不攻也

行千里
勞せ不者
無人地と行

行千里而不勞者行於無人地
也攻而必取者攻其所不守也守
而必固者守其所不攻也

取者ハ其守
不所と攻

而必固者守其所不攻也
依て名將ハ
遠て行ども

攻不所守也

故善攻者敵不知其所守

微乎微乎無形乎神

進而禦可也

故我戰之欲也

故善攻者敵不知其所守
又味方いつも城と敵と不取らるるも敵の来らるる

不知其所守善守者敵不知其所

攻故して攻ての善者の敵の城内いつも其守べと

微乎微乎寄手の者その攻べと場所微乎微乎は知しつゝ

無形神乎神乎ナルカナ至於無聲故能為

敵之司命實や名將の事として

進而て我らめとせんとして不可追者衝其虚也退而不可追

者速而不可及也名將の軍と進て向い

故我欲戰敵雖高

壘深溝不得不與我戰者攻其所

必救也我不欲戰雖畫地而守之

敵不得與我戰者垂其所之也

敵不得與我戰者垂其所之也

敵我與戰ひを
得不着其之
所と垂れば也

故我形無れ
則我專而敵分
一也則我衆敵寡
能以衆擊寡則
吾所與戰者約
矣

吾與戰之所
之地不可知
則敵備之所
多則吾所
與戰者寡矣

故前則後寡
後則前寡
左則右寡
右則左寡
無所不寡
寡者備人者
也衆者使

戰闘と思ふべし敵
聖と高きと溝と深す
とすする救の所と
とてたつと名將た
の先の路とととと
敵のころと垂れ

故形入而我無形則我專而敵分
我專為一敵分為十是以十攻其
一也則我衆敵寡能以衆擊寡則
吾所與戰者約矣

吾所與戰之地不可知不可知則
敵所備者多敵所備者多則吾所
與戰者寡矣

故備前則後寡備後則前寡備左
則右寡備右則左寡無所不備則
無所不寡寡者備人者也衆者使

之と角て有
餘不足之處と
知

故形無至之極
形無則深
間も窺や能
不智者謀
能形は因て
措く衆知能
不人皆我勝所
以之形と知

而吾勝と制す
以之形と知
莫

故其戦ひ勝
て復せんと
形は應於窮
り無
夫兵の形は水
象水之形
高と避て
下趨兵之形
ハ實と避て

之處兼て敵の時は地形と軍兵をく
利を得と失ふは計とあり又敵と作
てその動と静との道理と知るは味方
強弱の形と志ありて敵とくは生るる場
に彼と死するの地なりとくは存生るる場
に我といふは有餘と十分なりとくは勢
形不足なりと其圖と手と握るは
皆兵を用ゆるの肝要なり

故形兵之極至於無形無形則深
間不能窺智者不能謀因形而措
勝於衆衆不能知人皆知我所以
勝之形而莫知吾所以制勝之形

軍の形の方圓曲直鏡の外は時
の依て形無窺しるは智者も謀計と
よその先形なりその形を以て敵と
よその敵衆の變動して虚實と見て勝
の道ぞ定め措き依て敵衆もくは
知るとは時の形の見知りては我勝と
製造するは所以なり
故其戦勝不復而
應形於無窮
再復するは勝るるの形と
依てその敵に應ずる
夫兵形象水水之
形避高而趨下兵之形避實而擊

聚和と交て而
舎す軍争より
難い莫

戦争之難者ハ
迂を以て直と
為患と以て利
と為故其途
迂を誘ふ利と
以て人先を
發人先を
至此迂直之
計と知者也

合軍聚衆交和而舎莫難於軍争

命を奉て軍衆と聚合一敵と和門を

軍の相争第一として最難義の如く三

軍争之難者以迂為直以患為利

故迂其途而誘之以利後人發先

人至此知迂直之計者也

難と迂の廻り大將の深く思慮とありしもの

迂直の計と達し方と便し行なり是迂直の計と知者也

敵利と學し直より迂りて押行是と人先を後て

迂直の計と達し方と便し行なり是迂直の計と知者也

為利衆争為危舉軍而争利則不

及委軍而争利則輜重捐

引擧て一様に行つては欲すは遅し及の

引擧て一様に行つては欲すは遅し及の

引擧て一様に行つては欲すは遅し及の

引擧て一様に行つては欲すは遅し及の

引擧て一様に行つては欲すは遅し及の

引擧て一様に行つては欲すは遅し及の

引擧て一様に行つては欲すは遅し及の

是の故は甲と
巻て而趨日
夜を倍し不道
を倍し行と
兼百里して而
利と争へば則

軍争る利と為
衆争る危と為
軍と舉て而利
と争へば則及不
軍と委而利と
争へば則輜重捐

不處倍道兼行百里而争利則擒

後ありは是故卷甲而趨日夜

三將軍と擒よ

勁者ハ先ラ疲
る者ハ後ラ其法
十の一

至五十里
而利と争
則上將軍と
其法半至
三十里
而利と争
則三分之
二至

是の故
輜重無
則凶
糧食無
則凶
委積無
則凶

故諸侯之謀
豫交不能
不山林險阻
澤之形と知
行者不能
導と用者
地の利と得
能

以て兵ハ詐
以て立ラ利
以て動ク分
合

經典餘而

三將軍

甲を巻て日夜
とゆくし
將も敵を擒
勁者先疲者後其法十

一而至五十里而争利則蹶上將
軍其法半至三十里而争利則

三分之二至
先疲者ハ後
人の者が
又五十里
北して蹶く
人つる
のニ

是故軍無
輜重則凶
糧食則凶
委積則凶

故不知諸侯之謀者不能豫交不
知山林險阻澤之形者不能行
軍不用鄉導者不能得地利

地理引り
故兵以詐立以利

孫子兵法

三

故兵法之用
之法高陵勿向
背丘勿逆
佯北勿從
銳卒勿攻
餌兵勿食
歸師勿遏
圍師勿闕
窮寇勿追
此用兵之法也

九變第八

孫子の曰凡兵
と用ゆる之法
將命と君に受
命軍と合衆を
聚む
圯地無舎
衢地無交
絶地無留
圍地無謀
死地無戰

又威勢の堂々たる敵陣に撃つるまじきなり
是奇變とくくめふの術つたり

故用兵之法高陵勿向背丘勿逆

佯北勿從銳卒勿攻餌兵勿食歸

師勿遏圍師必闕窮寇勿追此用

兵之法也

高陵は向ふ敵の山丘より下るるを逆
敵と攻むるべし又我は利敵
師取圍の法は圍むべし方と闕
敵は過らざるべし又敵
窮て逃ぐるる味方
右ハ條の兵の要法

九變第八

孫子曰凡用兵之法將受命於君

合軍聚衆

圯地無舎衢地無交

絶地無留圍地無謀死地無戰

圯地無舎衢地無交
絶地無留圍地無謀死地無戰
圯地無舎衢地無交
絶地無留圍地無謀死地無戰
圯地無舎衢地無交
絶地無留圍地無謀死地無戰
圯地無舎衢地無交
絶地無留圍地無謀死地無戰

途有不由軍有所不擊城有所不攻地有所不爭君命有所不受

故將通於九變之利者用兵

變之利者知地形不通者雖知地形不能得地之利矣

兵之治者不知變之術者不知五利之用雖得之不能用人之知

是故智者之慮利害必雜於利害而務可信也

下ハケ条ニ云ク其ノ絶地無留ノ一分ト合テ九變ノ文トシテ又地地ノ下ノ文ト九地ノ文ノ下ニ途有所不由軍有所不擊城有所不攻地有所不爭君命有所不受

命有所不受 道途ノ由ルニ伏勢ヲカキテ

故將通於九變之利者知用兵 敵軍ノ攻ムルニ無理ヤリ撃攻ヤリ

矣將不通九變之利雖知地形不能得地之利矣 九變ノ利ト通ズルニ兵ト

治兵不知九變之術雖知五利不能得人之用矣 九變ノ利ト通ズルニ兵ト

是故智者之慮 利ト害トハ

必雜於利害 利ト害トハ

務可信也 利ト害トハ

我害と雜て而
患解可也

是故諸侯と
屈する者い害と
以てす諸侯と
役する者業と
以てす諸侯と趨
以てす者利と
以てす

故兵法と用
之法其來
不と時と無
吾以て之と
攻不と時と
時と其

無吾攻可
所有を時也

故又將五危
有必死殺可必
生虜又す可念
て速くす可悔
可廉潔可辱
可民を愛を
る煩す可

智者利を置ぐは先害を信行信行雜於害

而患可解也害を置ぐは先害を信行

是故屈諸侯者以害役諸侯者以

業趨諸侯者以利是故利を置ぐは先害を信行

故用兵之法無恃其不來恃

吾有以待之無恃其不攻恃吾有

所不可攻也右述る如と察し常に利害

故將有五危必死可殺必

生可虜念速可侮廉潔可辱愛民

可煩災禍と引くは危殆とありとて

血氣の勇の益か殺ぐ命とありとて

心と必るもの毎し虜とありとて

の速く怒り又廉潔とて

辱し好むもの身より事のはり

と好むもの身より事のはり

と好むもの身より事のはり

と好むもの身より事のはり

と好むもの身より事のはり

と好むもの身より事のはり

凡此五の者い
將之過ら也兵
と用る之災
也軍と覆
將と殺こと必ず
五危と以てす
察せ不り可
不也

愛するもの手下支配下のものと煩ふり
凡此五者將之過也

用兵之災也覆軍殺將必以五危

不可不察也

凡て大將のありて軍兵と損ト覆顛とり
いふもの五危より生ずるものなり能察す

孫子卷之上終

